

2022年度 東広島市教育委員会主催・広島大学マスターズ共催市民講座

「楽しいドイツ語入門：後期」実施報告

広島大学マスターズ会員 吉田 光演

市民講座「楽しいドイツ語入門：後期」（11月12日、19日、26日、12月10日の各土曜日、13:30～15:00の計4回、11月26日のみくらら研修室、他3回は市民文化センター：サンスクエア研修室）を実施しました（12月3日は都合により12月10日に変更）。「ドイツの主な都市を旅行してドイツの文化に触れ、ドイツ語の発音、語彙、文法の初歩を学んで簡単な会話を修得する」ことを趣旨として、ドイツ語を聞き、話し、読むトレーニングを行いました（教科書は前期と同じく『アンファング-ドイツの街へ』を使用）。講座登録者は14名で、前期に受講された方が10名、新規の方が4名、毎回10名以上の方が参加されていました。

ドイツ語を初めて学ぶ方、中級以上の学習経験がある方、ドイツ滞在経験がある方など、受講者の学習レベルにはかなりの差がありましたが、初学者の方でも理解できる簡単なフレーズ・文を練習し、聞き取り練習や中級程度の読み物については「わからなくても大丈夫、大まかなイメージを持つことが大事」というスタンスで進めました。わからない部分はいつでも質問してもらい、進んだレベルの方に答えてもらう形で、多くの受講者が積極的に参加できる雰囲気を作るようにしました。毎回冒頭には早口言葉を提示して、ドイツ語の発音を楽しく学べる練習も取り入れました。

第1回は、前期最終回に学んだウルムの街についての会話を復習し、挨拶、動詞の規則変化、不規則変化形を復習し、曜日の呼び方、冠詞の使い方、名詞の格などを学習しました。第2回・第3回はミュンヘンがテーマで、学生街の様子、ビアガーデン、オクトーバーフェスト、クリスマス、住宅事情やドイツに多く住む外国人の出身国など、文化や歴史についても話題にしました。文法面では名詞の性・格の区別や複数形の作り方などを取り上げました。ドイツ語では名詞の性が男性・中性・女性の3種類、複数形は5種類あり、「ドイツ語の文法は難しい」と悩ませてしまう原因になりますが、法則性がいくつかあること、会話では間違ってもほとんど問題ないこと

を強調しました。代名詞の使い方、語順などについてもわかりやすく説明し、練習問題を解く中で初心者の方も理解できるよう心がけました。最終の第 4 回は南ドイツのドナウ河畔の古都レーゲンスブルクがテーマとなり、さらにクリスマス市で有名なニュルンベルクについても話題にし、その中で手紙やメールの書き方も説明しました。写真や図を使ってドイツの文化・生活を紹介し、また、受講生からも旅行・滞在体験について語ってもらいました。クリスマスの時期でもあり、最後に「もみの木 (O Tannenbaum)」と「きよしこの夜 (Stille Nacht, heilige Nacht)」の歌を CD で聴き、歌詞を読み、歌って終わりました。

前期・後期で 8 回の講座で身につく会話力のごくわずかですが、ドイツ語圏を旅行したり、ドイツの文化を学んだりする際の手助けになれば幸いです。